

地域ケアネットワークだより

温海地域では、担当の民生児童委員が中心となり、地区ごとに自治会長や地域福祉・行政等の関係者が集い、「福祉懇談会」を毎年開催しています。

市民の福祉や安全に携わる人たちが一堂に会して話し合うことで、身近な地域の課題解決に向けた連携強化を図っています。

今年度のテーマ

『住み慣れた温海地域で
安心・安全に暮らしていくために
今、私たちにできることを考えよう』

なぜ今、「支え合いの地域づくり」 が必要なのでしょう？

人口減少、少子高齢化、一人暮らし世帯の増加、商店や銀行・路線バスの撤退…。地域を取り巻く生活環境は厳しくなる一方で、以前は身の回りに当たり前にあった「助け合い」の関係性が弱くなっているのではないのでしょうか。

担い手不足、厳しい国や自治体の財政状況から、今後も今の福祉サービスの水準を維持するのは困難と言われています。福祉を支える機能や役割が、私たちの地域社会に大きく押し寄せています。

そんな今だからこそ、年を重ねても住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、助けが必要な時に気軽に相談でき、住民同士が支えたり・支えられたり、「お互い様」の地域づくりが求められています。

温海地域の”支え合い”活動の実例

- 浜っこマルシェ…浜温海で地域のお店を開店
- 支え合い「結の会」…山戸地区の有償ボランティア
- いきいき百歳体操…11 団体で定期開催
- スマホサロン…ふれセン、鼠ヶ関、山五十川で開催
- あづばりまんま…小国で手作り料理の食事会

他にも、近所のお茶飲みなど何気ない支え合いが、高齢者の見守りにもなっています。

地区福祉懇談会

参加者

自治会長、民生児童委員、消防署温海分署、鶴岡警察署温海交番(駐在所)、介護事業所、温海庁舎市民福祉課、同 総務企画課、温海福祉センター、地域包括支援センターあつみ



グループワーク

地域でできることへの「気づき」と様々な「アイデア」

懇談会では、今年度のテーマに関して自分たちの地域で取り組めることはないかなどグループに分かれて話し合い、様々な意見やアイデアが出されました。

●高齢者の生活支援・見守り

- ▶ 高齢者が集まる場・機会が必要。特に男性の集まる機会が少ない。料理教室などやっては。
- ▶ 一人暮らし高齢者への声掛けや見守り、支援が必要。
- ▶ 雪下ろしの有償ボランティアでの仕組みづくりをしては。
- ▶ 「結の会」のような地域の支え合いの仕組みが必要。立ち上げに向けて検討したい。

●移動手段

- ▶ 免許返納後の通院のための移動手段対策が必要。
- ▶ 「湯ったり号」をもっと利用しやすく。(コース、便数、予約方法、特別便の一人利用可 等)

●子育て環境

- ▶ 子供たちに地域の良さを伝えて、将来自分たちで地域を守る心を育てる。
- ▶ 未来塾や放課後児童クラブの送迎に、スクールバスや乗合タクシーが利用できないか。



10/17 第2地区

●空き家

- ▶ 集まる場所や移住者誘致に活用するため、空き家リストを作る。
- ▶ 宿泊したい人とのマッチング。

●その他

- ▶ ゴミを前夜から出せるようなゴミ置き場の設置とルール作り。
- ▶ 災害時に備え、隣組での助け合いや要サポーターの台帳整備が必要。



11/12 第3地区



10/19 第4地区

まとめ



これまでの地域課題の共有から、一歩進めて自分事として具体的な解決策を考える機会となりました。住み慣れたこの地域で5年後、10年後も安心して暮らし続けられる、支え合いの地域づくりに向けて、まずは「できること」を「できる範囲で」始めませんか。ご自分の地域でも活動を始めたい、こんなことやっていますよ…など、お気軽にご相談ください。